

特集:RS ウイルス感染症

RS ウイルス感染症は、平成15年11月から、感染症発生動向調査における五類感染症の小児科定点把握疾患に追加され、京都市では41の医療機関、全国では約3,000の医療機関から毎週、報告されるようになりました。

診断は、迅速診断キットによる抗原の検出や、細胞培養によるウイルス分離（RS ウイルスに感染した細胞は特徴的な変性を示す。図1、図2参照）、中和反応及び補体結合反応を含める血清抗体の検出などにより確定します。



図1) 正常FL細胞

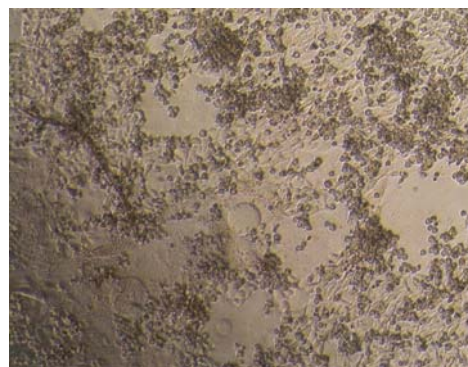


図2) RS ウイルス感染FL細胞の変性

医療現場で最も普及している迅速診断キットは、入院患者のうちRS ウイルス感染症を疑う場合の使用に限り健康保険による療養の給付の対象とされ、外来での確定診断では制限されるため、実際の患者数は、報告数よりかなり多いことが予想されます。

今シーズン（平成21年第36週～平成22年第9週）は、例年よりもピークに遅れが見られ、3月に入ってから報告が続いており、流行はもうしばらく続くと考えられます。（図3参照）

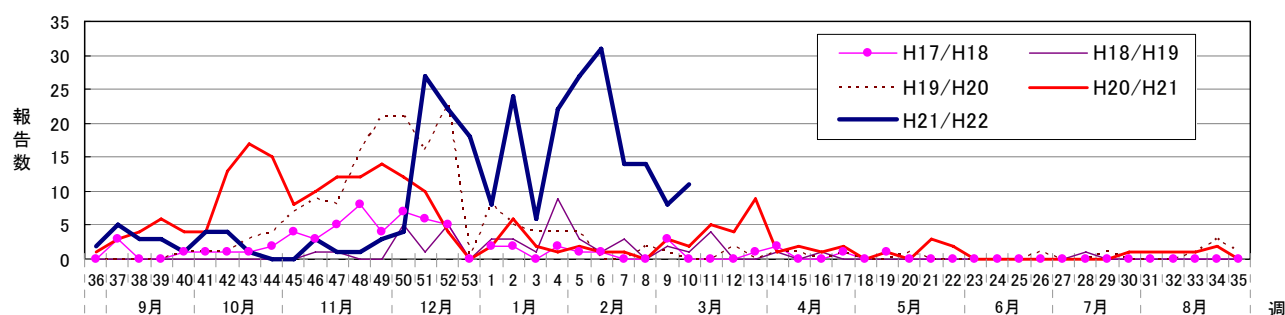


図3 本市の報告数の推移（5シーズンでの比較）

平成21年1月から平成22年1月までに、市内3箇所の病原体定点医療機関から京都市衛生公害研究所に搬入された検体のうち、RS ウイルスが分離・同定されたのは18株で、すべて鼻咽頭拭い液の検体からでした。臨床診断名は、かぜ症候群が16件、RS ウイルス感染症が2件でした。年齢階級別では、1歳が最多で6件、続いて2歳が4件、1歳未満及び3歳が3件となっています。

保育所、家族間での感染が各1件あり、注意が必要です。

京都市衛生公害研究所ホームページの下記のURLに、情報を掲載しています。

- ・ 「RS ウイルス感染症について」 <http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000076939.html>
- ・ 「インフルエンザ・小児感染症の疾患別推移グラフ」 <http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000065390.html>
- ・ 「京都市感染症週報」 <http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000074152.html>